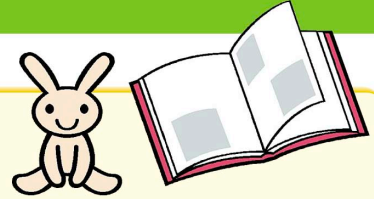


資料
4

エピソード② ～地域ぐるみで読書を推進している青森県板柳町の子どもたちの「うちどく」についての子ども会議の中から～

□前半

① みんなの家では「うちどく」やってる？



- A さ ん：「うちはやってるよ！家族みんな、本が好きだから！」
Aさんの弟：「うん！お父さんは「うちどく」がきっかけで本を読み始めたんだよ。」
B く ん：「いいな～。うちは、お父さんが読まないからなあ。」
C さ ん：「うちはお父さんが本を読もうって声をかけてくれるよ。」
D く ん：「へえー、みんなやってるんだ。うちは、これから始めるとこかな。」
E さ ん：「うちはお母さんとやる感じだけど、私が本を選んだら、読んでくれると思うな。」
D く ん：「大人は忙しいから、ぼくたちが本を選んであげたらいいんだよね。」
全 員：「そうそう！それは賛成！」
B く ん：「ぼくは、家族からどんな本を読んでもの？
と聞かれるんだよ。」
A さ ん：「チャンス！そういう時は自分の好きな作家を
すすめたりできるし」
D く ん：「TVや映画の原作とか、短編ならいいのかも」
B く ん：「やっぱり興味があるものもいいよね。ぼくは、お父さんの目につくところに本
を置いておこうと(笑)」



□後半

② 「うちどく」は、いつやるのがいいのかな？

- Cさん：「晚ごはんを食べた後が多いよ、うちは。」
Aさん：「うちは特に決まっていないけど、それぞれの時間でやってる。」
Dくん：「そうだ、『見ない日』にもやればいいんじゃない？
……(板柳町では毎月30日を『見ない日』としてノーテレビ、ノーゲームを推進中)……
Bくん：「そうだ。それはいい。1月の『見ない日』は家族でたくさん話したよ。」
Cさん：「うちも！居間にみんな集まって話したのが楽しかった。」
全 員：「『見ない日』に本の話をしたらいいね。」

③ 家族で本の話をしたい？

- 全 員：「したい！したい！」
Aさん：「うちは、「うちどく」やって、本の話をするのが多くなったよ。」
Cさん：「車の中とか、そういう時によく本の話をするようになった。」
Eさん：「車の中はいいよねー。話しやすいし」
Aさん：「ねえ、みんなで推理小説を読んで、犯人とか推理したら楽しいよね。」
(みんな、うなずく)
Dくん：「家族で一緒に図書館に行きたいな！」
Bくん：「ぼくは映画の原作を一緒に読んで、映画を一緒に見に行きたい！」
Cさん：「だったら、私はお母さんと本を見ながらお料理したい！」
全 員：「いいね、『うちどく』でやりたいことが広がるね！」

テーマ

ケータイ小説どう考えますか？ ーケータイ小説と本のちがいー

V-5

資料
1

ケータイ小説例（Yam Yam 作）

「川上！何やってるんだ、もうついてこれないのか！」

孝介は、うしろを走っている由加里に声をかけた。

「いいえ、大丈夫です。」

由加里は走り出そうとするが、すぐにたおれた。

「しょうがねえなあ…」

「すみません。ごめいわくおかけして…」

手を差し出す孝介。

その手をそっとにぎり返す由加里。

「このくらいでへばるんじゃ、明日からの練習はきついな」

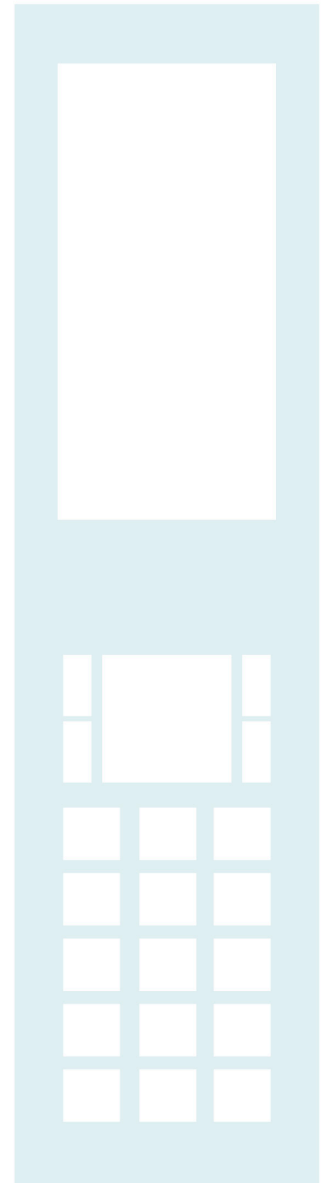
サラサラした髪、キラキラした瞳、きらっと光る白い歯

なんて素敵な人なの！

「大丈夫です。がんばりますから…」

由加里は走り出した。

孝介はにこっと笑って由加里の背中を見つめた。

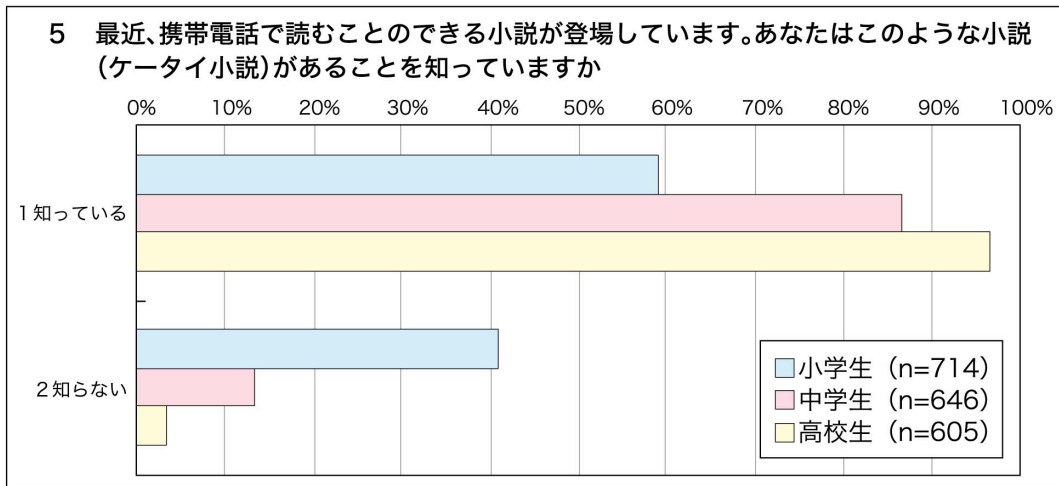


資料 2 ケータイ小説について

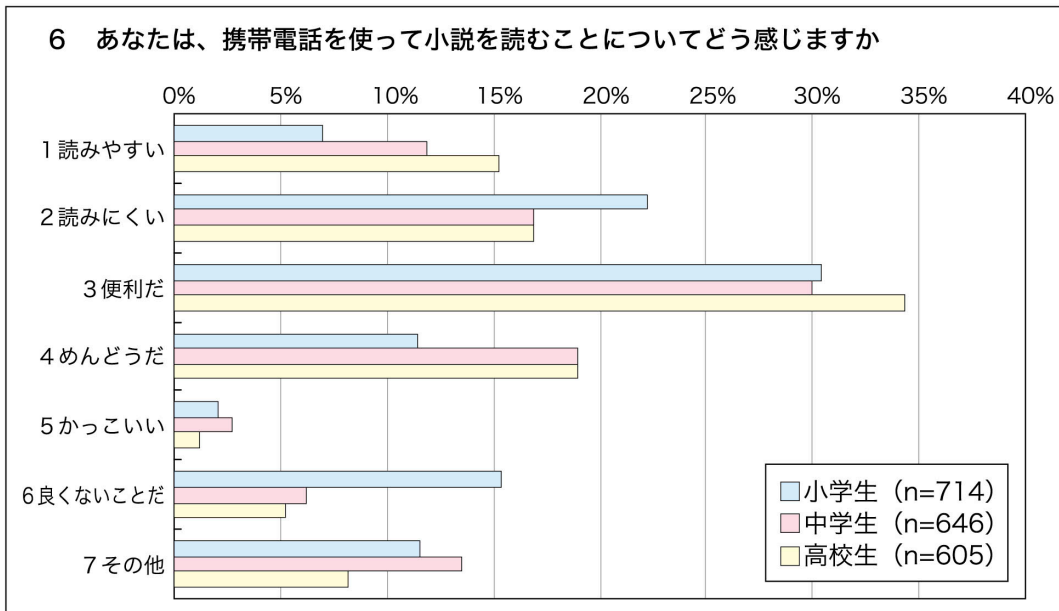
参照：ケータイ小説について

ケータイ小説とは、携帯電話を使用して作成される小説(電子書籍)のことである(ケータイ小説例参照)。2002年ごろから中高生を中心とした若者文化の一つとして注目されたのち、2005年ごろから人気のケータイ小説が書籍化され、ベストセラーになったり、映画化されたりするなど社会現象となった。内容は、思春期を迎えた女子生徒の恋愛経験にもとづいたものがほとんどで、失恋、妊娠、自殺などの深刻なテーマで書かれることが多い。ケータイ小説を読んだ経験のある生徒の割合は、男子は中学生23%、高校生46%なのに対し、女子中高生に関しては中学女子75%、高校女子86%に上る。

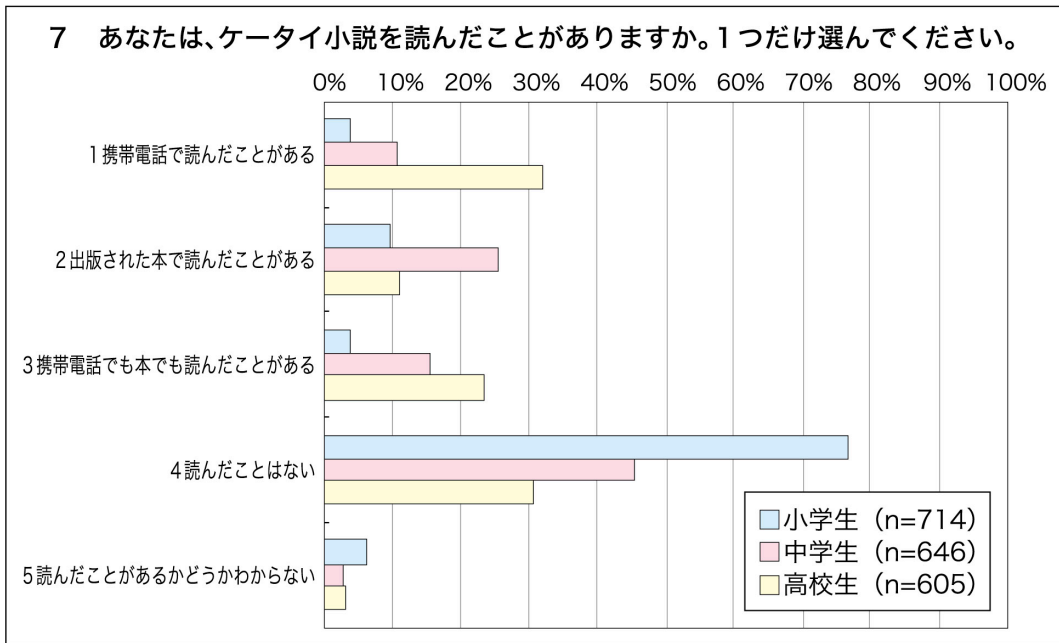
資料 3 平成20年度子どもの読書活動に関する実態調査(栃木県教育委員会)



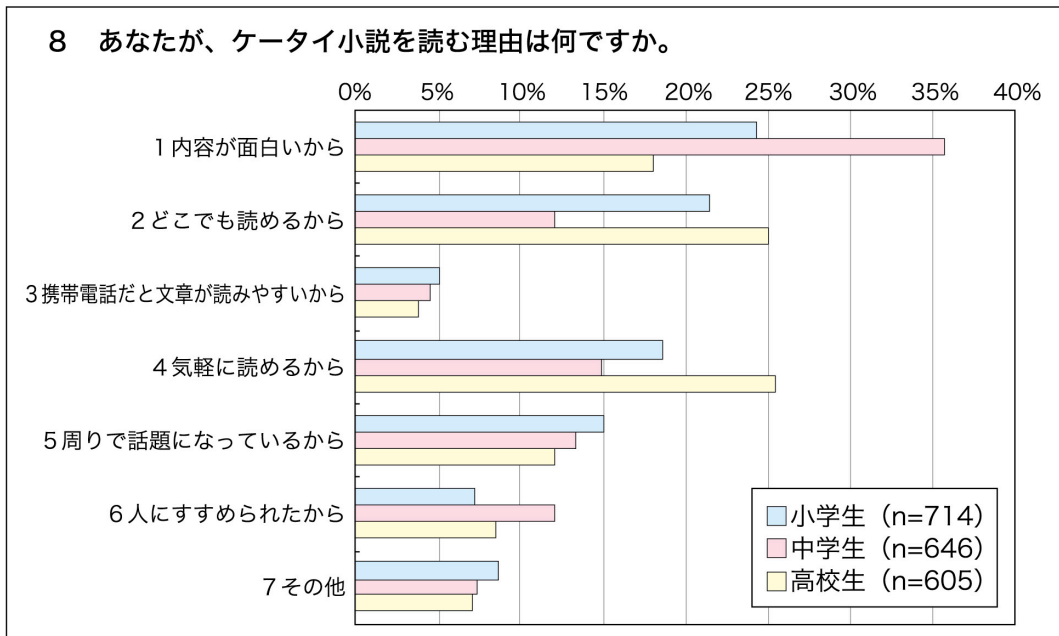
学齢が上がるにつれ、「知っている」と回答する割合は増加し、高校生では約97%が「知っている」と回答している。



小学生、中学生、高校生ともに「便利だ」と回答する割合が最も高いが、続いて中学・高校生では「めんどうだ」、小学生では「読みにくい」という回答が高い割合を示している。また、学齢が上がるとともに「読みやすい」と回答する割合が高くなっている。



学齢が上がるにつれ、「携帯電話で読んだことがある」「携帯電話でも本でも読んだことがある」と回答する割合が高くなっているが、「出版された本で読んだことがある」と回答した割合は中学生が最も高い。



小学生では「内容が面白いから」、高校生では「どこでも読めるから」「気軽に読めるから」と回答した割合が高い。中学生では「内容が面白いから」と回答した割合が、他の回答より倍以上高くなっている。

